

②⑤ 明智光秀書状

「年不明（天正四年（一五七六）カ）

矢野弥三郎 宛」

赤井五郎・萩（萩）野悪右衛門尉
被召出付而、去年以来
御馳走之旨申上候処、
如此 御朱印被成候、
尤珍重候、弥可申談覚
悟候、随而いつかたハ不存、
出陣之旨被 仰出候、其元
遠路之儀候間、先ハ無用候、
在陣長々敷候ハ、ふと御見
舞待入候、旁期来信候、恐々謹言、

惟日向守

卯月十四日

光秀（花押）

矢野弥三郎殿

御宿所

読み

赤井五郎・萩（萩）野悪右衛門尉
召し出されるに付きて、去年以来
御馳走の旨申し上げ候処、
このごとく御朱印成られ候、
尤も珍重に候、いよいよ申し談ずべき覚
悟に候、随ていつかは存ぜず、
出陣の旨仰せ出だされ候、そこもと
遠路の儀に候間、先は無用に候、
在陣長々しく候はば、ふと御見
舞待ち入り候、旁来信を期し候、恐々謹言、

惟日向守

卯月十四日 光秀（花押）

矢野弥三郎殿

御宿所

内容

赤井五郎と萩野悪右衛門が（信長に）召し出される（面会して和睦する）ことについて、去年以来（あなた・矢野がそのために）尽力したことを（わたし・光秀が信長に）申し上げたところ、このように朱印状が（あなたに）与えられました。大変喜ばしいことです。（今後も）益々（あなたと）相談し懇意にする考えでいます。したがって、どこかはわかりませんが、（信長から光秀に）出陣の要請が出される時、（その時あなたは）遠路であるため、まずは（すぐの出陣の）必要はありません。長期戦になれば、急ぎ（あなたからの陣中の）お見舞いを待っています。いずれにしても（まずはあなたから来る）返事を待っています。

惟日向守

四月十四日 光秀（花押）

矢野弥三郎殿
御宿所